

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名： 文明動態学研究所		学域名： —	部局長名： 今津勝紀
目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等	
①教育領域		教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等	
課題：分野横断的視点・文明動態学的視点を教育に活かす。 研究部門 ①研究所に設置している分析機器を活用した研究を学部生・大学院生も行えるような体制を構築し、異分野融合的研究の推進を担う若手研究者の育成に資する。 ②RECTORプログラムで招へいする海外研究者と学生との交流をはかり、若手研究者の育成に資する。 ③PDの受け入れを積極的に行い、研究所内外での研究発表等を推奨し、分野横断的視点・文明動態学的視点を醸成する。 文化遺産マネジメント部門 ④構内遺跡の調査・研究成果を活かし、博物館実習を行うことで、学芸員課程の教育および実践型社会連携教育の拡充に寄与する。	関連する 中期計画の番号	研究部門 ①研究所に設置しているポータブルXRF、X線CT、3Dスキャナを、学部生・大学院生が研究に使用できる体制を整え、理化学的な分析法や統計的な手法、デジタル技術を用いた研究指導も行い、新しい研究を担う若手の育成に尽力した。 ②RECTORプログラムで招聘した海外研究者による講演会を開催し、若手研究者との交流を促進した。また招聘した海外研究者との共同研究を通して得た最新の研究成果を学生の教育に盛り込み次世代育成に寄与した。 ③令和6年度まで受け入れていたPD1名は令和8年度に採用が決定し、若手研究者の育成に成果があった。また、ソルボンヌ大学で学位を取得し、欧州の奨学金を獲得したフランス人PD1名を受け入れた。トリノ大学の博士課程学生が共同研究の枠組みで来日し、惑星物質研究所で分析を行うなど、国際的・分野横断的研究活動を促進した。 文化遺産マネジメント部門 ④構内遺跡の調査研究成果を博物館実習「埋蔵文化財の取り扱い」に活かし、博物館実習生の指導にあたった。	
	8-1		
②研究領域		研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等	
課題：人文社会科学を核とした分野横断的研究を推進し、持続可能な社会の構築に貢献する文明動態学を構築する。 ①学際・融合領域における新しい研究プロジェクトや研究グループの創成支援を行う。 ②海外研究機関との連携を強化し、若手研究者の育成および研究力強化を目的として、国際研究プロジェクトを実施する。中央アメリカでの国際共同研究やBe-Archaeoプロジェクトで構築したネットワークを発展させ、国際共著論文数およびQ1ジャーナル掲載数を前年より10%増加させる。 ③文化遺産マネジメント部門では構内遺跡の研究を中心に、分野横断的研究を行う。 ④構成員の研究進捗状況を共有するため、研究セミナーを定期的に企画・開催する。 ⑤科研費の申請率100%、獲得率75%以上を達成するため、若手研究者の申請書の添削などに力を入れる。 ⑥研究・イノベーション共創機構の積極的支援を仰ぎ、共同・受託研究費及び受託事業受け入れ額8,000(千円)を目標とする。	関連する 中期計画の番号	①分野を超えた研究プロジェクトを募集し、6件を採択して新たな研究グループ創生を支援した。その成果として分野横断的な科研プロジェクト3件が採択された。高等先鋭研究院連携プロジェクト「作物遺伝資源×考古学で拓く農と食の共創進化史」研究ネットワーク構築ワークショップを開催し、国際的な研究展開を実施した。第1回岡山大学文明動態学研究所学術研究会「吉備の古代史を考える」を開催し、吉備の地域史研究の普遍的な可能性を追求した。 ②RECTORプログラムと学際ハブ形成プログラムにより、Be-Archaeoプロジェクトで構築したネットワークをさらに発展させ、若手研究者のRyan Josephを中心とする文理融合の国際共同研究、鈴木教授によるBIZEN中南米美術館（連携機関）所蔵の碑文画像資料の解説に関する共同研究、米国イェール大学(Yale University)との共同によるグアテマラ南海岸のエル・レマンソ(El Remanso)遺跡の発掘調査を実施した。研究成果として国際共著論文が4本、Q1論文2本が掲載された。 ③マネジメント部門では、構内の20世紀前半期の文化遺産に対する学術調査として、橋梁演習施設の発掘調査を実施した。また構内遺跡の評価を深化させるため科研費の枠組みで採取したボーリングコアや植物資料等複数の構内遺跡出土資料に対する自然科学的分析を実施した。 ④8月を除き毎月RIDCマンスリーセミナーをオンラインで開催した。セミナーには毎回40人前後から多いときは100人の参加があり、分野を超えた研究進捗状況の共有を推進した。 ⑤科研費獲得への働きかけを強化し、セーフティネットの活用による準備を進めた。その結果、新たに3件の採択があった。専任教員の科研費獲得率は目標を大きく上回る163.6%に達した。 ⑥共同・受託研究費の受け入れについては、研究・イノベーション共創機構からの支援も受けたが、ミスマッチのため新規の受け入れは実現しなかった。	
	8-1		
③社会貢献(診療を含む)領域		社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等	
課題：文明動態学研究所の成果を広く社会に還元し、持続可能な社会の創成に貢献する。 ①一般市民向けの公開講座、公開シンポジウム、展示会を開催する。 ②文化財の保護・活用、地域社会の維持・活性化を推進するため、地域社会や関係諸機関と連携する。地域の埋蔵文化財に関する事案について指導的な助言を行い、地方公共団体等の埋蔵文化財行政に寄与する。 ③刊行物やウェブサイトを通して研究活動や成果について積極的に分かりやすい情報発信を行う。 ④セミナー、シンポジウム等のオンライン配信・動画の事後公開を行い、研究成果へのアクセシビリティを高める。 ⑤史料ネット等と連携し、地域歴史遺産の保全と活用を通じた新たな地域社会の創造に貢献する。	関連する 中期計画の番号	①マネジメント部門主催の公開講座を2回、研究所主催で「第2回大学と戦争遺跡カンファレンス」を開催した。第24回岡山大学キャンパス発掘成果展「鹿田庄のくらしと住まい」を開催した。 ②文化庁、岡山市、倉敷市、赤磐市、総社市、矢掛町、福山市、滋賀県、鳥取県の文化財保護行政に対して審議委員等の立場から助言を行い、津山市、丹波篠山市の市史編纂に協力した。また地域の企業・生産者、経済界、自治体・国の出先機関と連携して既存産業の持続的に成長できる新しい産業に生まれ変わらせることを目的とした新産業化推進研究会を設置し、第2回シンポジウムを開催した。 ③研究所のウェブサイト、Facebook、YouTubeを通して、研究所の紹介動画を作成するなど分かりやすい情報発信を行った。『考古学×歴史学で古代吉備にせまる』の動画は2万視聴を超えた。 ④マンスリーセミナーで公開可能なものをYouTubeで公開している。修学旅行の研修先として高校生を受け入れ、文明動態学をわかりやすく解説するなど、研究所の周知に努めた。 ⑤市民との協働による西日本豪雨での被災資料の所蔵者への返却を進めた。土師家文書については高梁市と共同で講演会「土師家文書でたどる備中国川上郡福地村の神社と人びと」を開催した。	
	8-1		
④管理運営領域		管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等	
課題 分野横断的研究の効率的かつ安全な推進を可能にする管理運営体制の構築 ①本研究所在が目指す分野横断的・国際的研究を推進するため、インナーブランディングを強化し、活発な意見交換ができる組織づくりを行う。 ②分野横断的共同研究プロジェクトのインキュベーション・アウトプットに対して、戦略的に予算を割り当てる。 ③人事において女性教員採用比率を45%以上とし、女性教員比率30%を達成する。また国際的研究者の客員研究員としての参画を通して、研究組織の活性化・国際化を図る。 ④研究基盤である文化財の保存・修復・管理・公開等に係る望ましいマネジメント体制の構築に向けて関連部局と連携し、課題の整理及び体制案の策定を進める。 ⑤文化遺産マネジメント部門では、文化財保護法に則り、構内遺跡に対して、建設工事に伴う発掘調査や立会調査を適切に実施する一方、発掘調査報告書作成のための整理作業を進め、発掘調査報告書の刊行につなげる。また出土遺物・資料については適切な保管・管理を行う。	関連する 中期計画の番号	①教授会その他、マンスリーセミナーの企画運営、オンラインジャーナル『文明動態学』の企画・編集などにより、活発な意見交換を行い、分野横断的・国際的研究を推進する組織づくりを行った。 ②分野横断的共同研究プロジェクトのインキュベーションに研究所予算の約4割を戦略的に割り当て、新たなプロジェクトを6件採択した。 ③新規に採用する教員はいずれも女性であり、女性教員採用比率100%を実現した。アリゾナ州立大学、カリフォルニア大学リバーサイド校、台湾中央研究院から客員研究員の参画を得て、国際的な研究拠点形成を進め、国際的研究基盤が強化された。 ④出土文化財の早急かつ適切な保管を図るため、文化財保護助成の採択を受け、出土木製品の保存処理を実施した。 ⑤文化遺産マネジメント部門では『津島岡大遺跡24』を滞りなく刊行し、構内遺跡に対する立会調査を適切に実施した。	
	8-1 11-2		

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。